
 ニ ュ ー ス

日本の火山活動概況（2015年10月～12月）

気象庁

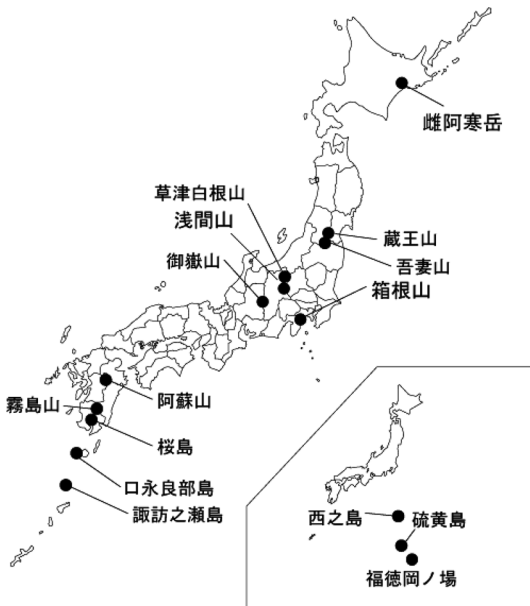


図 1. 2015年10月～12月に目立った活動があった火山

雌阿寒岳 (43° 23′ 12″ N, 144° 00′ 32″ E)

ポンマチネシリ火口付近の浅いところを震源とする微小な火山性地震は、8月下旬以降は1日あたり概ね10回と少ない状態で経過した。

10月1日に実施した現地調査及び第一管区海上保安本部の協力による上空からの観測では、7月の現地調査と比較してポンマチネシリ第4火口北壁における地熱域のわずかな拡大や、96-1火口底の温度上昇を確認した。7月27日に実施した上空からの観測（国土交通省北海道開発局の協力による）以降確認されているポンマチネシリ第3・4火口の地熱域の広がり、噴煙の増加及び全磁力の減少が観測された2013年と同程度であり、2008年噴火前と比較して小規模なものに留まっている。

ポンマチネシリ96-1火口南側で実施している全磁力連続観測によると、2015年3月中旬以降、96-1火口近傍の地下における熱活動の活発化の可能性を示す全磁力の減少傾向が引き続きみられている。

蔵王山 (38° 08′ 37″ N, 140° 26′ 24″ E)

2013年以降、火山性地震の増加や火山性微動の発生が観測されており、火山性微動は11月に3回、12月に1回発生した。そのうち11月30日に発生した火山性微動は、坊平観測点（山頂の南西約5km）の観測では、継続時間が約14分と、2013年1月以来発生している微動の中では比較的長いものであった。

坊平観測点の傾斜計では、2014年8月頃からみられていた南東上がりの傾向は、2015年11月頃から停滞している。また、GNSS連続観測では、一部の基線で2014年10月以来、山体付近のわずかな膨張を示す地殻変動が観測されていたが、2015年6月頃から停滞している。

12月2日に山形県警察の協力により実施した上空からの観測では、御釜とその周辺に噴気及び地熱域はみられなかった。

吾妻山 (37° 44′ 07″ N, 140° 14′ 40″ E)

火山性地震は少ない状態で経過した。噴気活動はやや活発な状態が続いており、10月11日から12日にかけて実施した現地調査では、大穴火口内及びその周辺で2013年以降拡大がみられている地熱域を引き続き確認した。また、10月14日から15日にかけて実施した現地調査では、一切経山西側の登山道沿いで弱い噴気を確認した。大穴火口周辺で実施した全磁力繰り返し観測では、大穴火口周辺の地下での熱活動が活発化している可能性が考えられるデータが引き続き観測された。

浄土平観測点の傾斜計では、2014年4月以来緩やかな西側（火口方向側）上がりの変動で推移し2015年7月から停滞していたが、9月後半から西側下がりの傾向となっている。GNSS連続観測では、2014年9月から一切経山付近の膨張を示す緩やかな変化がみられていたが、2015年6月頃から停滞している。国土地理院の広域的な地殻変動観測結果では、2014年12月頃から一部の基線で山体の膨張を示す地殻変動がみられていたが、2015年7月頃から停滞している。

草津白根山 (36° 38′ 38″ N, 138° 31′ 40″ E)

湯釜火口内北東部や北壁及び水釜火口の北から北東側にかけての斜面で熱活動の活発な状態が継続している。9月29日から10月2日にかけて実施した現地調査では、前回（5月12日）の観測と同様に、引き続き湯釜火口北壁北側、北側噴気地帯に地熱域が認められた。北側噴気地帯の噴気活動については、前回の観測と比べて活発

になっていた。また、10月13日に陸上自衛隊東部方面航空隊の協力により実施した上空からの観測でも前回(3月16日)同様に、湯釜火口壁北側で高温域を確認した。

2014年3月上旬から湯釜付近及びその南側を震源とする火山性地震が増加したが、2014年8月下旬以降は概ねやや少ない状態で経過している。

GNSS連続観測では、湯釜を挟む基線で2014年4月頃からわずかな伸びの変化がみられていたが、2015年4月頃より鈍化している。また、湯釜周辺に設置している東京工業大学の傾斜計によると、2014年3月からみられている湯釜付近浅部での膨脹を示す変動は、2015年11月頃から停滞傾向が認められる。

東京工業大学によると、北側噴気地帯のガス組成及び湯釜湖水の化学成分にも火山活動の活発化を示す変化が継続している。また、全磁力観測による2014年5月頃からみられていた湯釜近傍地下の温度上昇を示すと考えられる変化は、2014年7月以降停滞している。

浅間山 (36° 24′ 23″N, 138° 31′ 23″E)

6月19日の噴火以降、噴火は観測されていない。火口からの噴煙は白色で、火口縁上100~1,200mで経過しており、噴煙量は6月以降増加している。

10月14日に陸上自衛隊東部方面航空隊の協力により実施した上空からの観測では、山頂火口内の火口底中央部及び周辺に引き続き高温領域が認められた。また、今期間実施した現地調査では、火山ガス(二酸化硫黄)の放出量が1日あたり600~2,000トンと引き続き多い状態で経過している。

4月下旬頃から増加している山頂火口直下のごく浅い所を震源とする体に感じない火山性地震は、8月以降やや減少しているが、引き続き多い状態で経過している。

光波距離観測では、6月頃から山頂と追分の間でみられていた縮みの傾向が、10月頃から停滞している。傾斜計による地殻変動観測では、6月上旬頃から緩やかな変化がみられており、鈍化しながらも継続している。GNSS観測では、5月頃からの浅間山を挟む基線でみられていたわずかな伸びは、10月頃から停滞している。

御嶽山 (35° 53′ 34″N, 137° 28′ 49″E)

火山活動は低下した状態が継続しており、2014年10月中旬以降、噴火は観測されていない。一方、火口列からの噴煙活動や、地震活動は続いている。三岳黒沢及び鈴蘭高原に設置している遠望カメラ、中部地方整備局が滝越等に設置しているカメラによる観測では、白色の噴煙が火口縁上300~500mの高さで経過した。また、10月までは、上空の風が弱いときには一時的に最高で火口

縁上1,000mの高さまで上がった。

火山性地震は少ない状態で経過したが、2014年8月以前の状態には戻っていない。

箱根山 (35° 14′ 00″N, 139° 01′ 15″E)

大涌谷で7月1日にごく小規模な噴火が発生した以降、噴火は観測されていない。地震活動は、7月以降減少し、10月中旬には4月の活発化以前の状態となった。今期間、火山性微動は観測されていない。GNSS連続観測並びに気象庁及び神奈川県温泉地学研究所が設置している傾斜計及び体積ひずみ計では、特段の変動はみられていない。

一方、大涌谷周辺の想定火口域では、緩やかな低下傾向はみられるものの、遠望カメラによる観測及び今期間実施した現地調査では、15-1火口や噴気孔、またその周辺の大涌谷温泉供給施設からの噴気等が引き続き勢いよく噴出しているのを確認している。

西之島 (27° 14′ 49″N, 140° 52′ 28″E)

海上保安庁、海上自衛隊等の観測によると、噴火及び溶岩の流出が継続し、新たに形成された陸地の拡大が確認された。

12月22日に海上保安庁が実施した上空からの観測によると、調査中に第7火口及びその他の場所からの噴火は観測されなかった。新たな溶岩流は認められなかった。熱計測の結果では、第7火口や溶岩流も含めて、西之島島内に顕著な高温域は認められず、前回の調査(11月17日)と比較すると顕著な温度低下が認められた。新たな陸地の大きさは、東西方向に約1,900m、南北方向は約1,920m、面積は約2.62km²であった。

硫黄島 (24° 45′ 02″N, 141° 17′ 21″E (摺鉢山))

ミリオンダラーホール(旧噴火口)では、2012年2月上旬から水蒸気爆発が度々発生しているが、今期間、噴火の発生はなかった。

火山性地震は、やや少ない状態で経過した。火山性微動が時々発生したが、火山性微動が観測された時間帯に、その他の観測データに特段の変化は認められなかった。

GNSS観測によると、地殻変動は隆起・停滞を繰り返しており、2014年以降は、島の北部ほど隆起が大きい状態が継続している。

福徳岡ノ場 (24° 17′ 05″N, 141° 28′ 52″E)

10月18日に第三管区海上保安本部が実施した上空からの観測では、福徳岡ノ場付近では変色水等は認められなかった。

福徳岡ノ場ではしばしば火山活動によるとみられる変色水や浮遊物が確認されており、2010年2月3日には小規模な海底噴火が発生している。

阿蘇山 (32° 53′ 01″N, 131° 05′ 49″E (中岳))

中岳第一火口では、9月14日の噴火以降、連続的に噴火が発生し、10月23日まで続いた。10月23日に発生した小規模な噴火では、噴煙が火口縁上1,000mを超え、大きな噴石が飛散した。12月7日にもごく小規模な噴火が発生し、同日実施した現地調査では、中岳第一火口の南西側でわずかな降灰を確認した。熊本大学が実施した調査によると、この噴火に伴う噴出物の総量は約7トンと推定される。また、12月25日04時21分頃に空振を伴う振幅のやや大きな火山性微動が発生した。火口周辺は雲に覆われていたため噴煙などの状況は確認できなかったが、その後、気象庁及び京都大学大学院理学研究科付属地球熱学研究施設火山研究センターが実施した現地調査で、火口南西側に新たに噴石が飛散しているのを確認したことから、同日の火山性微動発生時に噴火が発生していたものと考えられる。

火山性地震は10月以降減少したが、12月4日に中岳第一火口付近のごく浅い所を震源とする振幅の大きな火山性地震が発生し、南阿蘇村中松で震度1を観測した。火山性地震により震度1以上を観測したのは、5月8日(震度3)以来であった。孤立型微動の発生は10月下旬以降減少したが、12月は時々多くなった。

今期間実施した現地調査では、火山ガス(二酸化硫黄)の放出量は1日あたり300~1,900トンであった。

GNSS連続観測では、深部にマグマだまりがあると考えられている草千里を挟む古坊中-長陽(国)の基線で、8月頃からわずかな伸びの傾向が認められていたが、11月頃から停滞している。

霧島山(新燃岳) (31° 54′ 34″N, 130° 53′ 11″E)

新燃岳では、今期間噴火の発生はなかった。

火山性地震は時々発生し、月回数は10月が50回、11月が24回、12月は69回であった。震源は、新燃岳付近のごく浅いところから海拔下2kmに分布した。

GNSS連続観測によると、新燃岳の北西数kmの地下深くにあると考えられるマグマだまりの膨張を示す地殻変動は、2015年1月頃から停滞している。一方、新燃岳周辺の一部の基線で、わずかに伸びの傾向が認められていたが、10月頃から停滞している。

霧島山(えびの高原(硫黄山)周辺) (31° 56′ 49″N, 130° 51′ 14″E (硫黄山))

えびの高原(硫黄山)周辺では、7月頃から振幅の小さな火山性微動が時々発生しているなど、火山活動がやや高まっている。

12月14日の鹿児島地方気象台と鹿児島大学による現地調査、及び15から17日にかけての気象庁機動調査班(JMA-MOT)による現地調査で、硫黄山の火口内の南西側で弱い噴気が発生していることを確認した。硫黄山における現地調査では、2003年以降、噴気は確認されていなかった。噴気を確認した付近の最高温度は約80℃で、この熱異常域は前回(11月2日)の現地調査時では確認されていなかった。その後、12月21日及び28日に実施した現地調査では、熱異常域がわずかに拡大しているのを確認した。

GNSS連続観測によると、えびの高原周辺の一部の基線で、わずかな伸びの傾向が認められていたが、10月頃から停滞している。

桜島 (31° 34′ 38″N, 130° 39′ 32″E (南岳))

昭和火口では、9月17日以降爆発的噴火は発生していない。また、9月29日以降は南岳山頂火口を含めて噴火も観測されなかった。

12月2日に海上自衛隊72航空隊鹿屋航空分遣隊の協力を得て実施した上空からの観測では昭和火口内はこれまでの噴火によると考えられる火山灰や噴石が堆積して円形の火口底を形成しており、その縁辺部から白色の噴煙が約100m上がっているのを確認した。赤外熱映像装置による観測では、前回(8月19日)の観測と同様に、火口底の縁辺部と中央部に高温域が認められた。

火山性地震の月回数は、10月は47回、11月は98回、12月は37回であった。火山性微動の継続時間は、10月の月合計で1時間未満と、9月(29時間)と比べて減少した。11月以降、火山性微動は発生していない。

今期間実施した現地調査では、火山ガス(二酸化硫黄)の放出量は1日あたり70~100トンと少ない状態で経過した。

桜島島内での傾斜計及び伸縮計による観測では、8月の急激な変動以降、山体膨張を示す地殻変動はみられていない。一方、GNSSによる観測では、始良カルデラ(鹿児島湾奥部)の膨張を示す伸びの傾向は、8月の急激な変動後も引き続きみられている。1月頃から島内でみられていた山体膨張の傾向は、8月の急激な山体膨張の変動以降、収縮傾向に転じている。

鹿児島地方気象台における月(合計)降灰量は、10月に1g/m²(11月及び12月は降灰なし)であった。鹿児島

島県が実施している降灰の観測データから推定した火山灰の総噴出量は、10月が約7万トン、11月が約3万トン、12月が約6万トンと、少ない状態で経過した。

口永良部島 (30° 26' 36" N, 130° 13' 02" E)

新岳では、6月19日の噴火以降、噴火は観測されていない。火山性地震は少ない状態で経過した。火山性微動は観測されていない。遠望カメラによる観測では、白色の噴煙が火口縁上600m以下で経過した。

10月3日に気象庁機動調査班(JMA-MOT)が実施した上空からの観測によると、白色の噴煙が西側の割れ

目付近と北側の火口縁付近及び南側の火口壁から上がっているのを確認した。赤外熱映像装置による観測では、新岳火口内に熱異常域を確認した。また、新岳火口西側割れ目付近及び北側と南側の火口縁で引き続き熱異常域を確認した。

今期間に東京大学大学院理学系研究科、京都大学防災研究所、産業技術総合研究所、屋久島町及び気象庁が実施した火山ガス観測では、火山ガス(二酸化硫黄)の放出量は1日あたり100~900トンと一時的にやま多くなった。

GNSS連続観測では、2014年8月3日の噴火により火口付近の観測点が障害となっているため、火口付近の状況は不明である。湯向へりポートや屋久島(国)湯向の基線では、5月29日の噴火以降に特段の変化は認められない。

諏訪之瀬島 (29° 38' 18" N, 129° 42' 50" E (御岳))

御岳火口では、10月(2日、13日及び31日)と11月(1日及び20日)に噴火が発生し、噴煙が最高で火口縁上1,000mまで上がった。今期間、爆発的噴火は発生しなかった。期間を通して夜間に高感度カメラで火映を時々観測した。

十島村役場諏訪之瀬島出張所によると、11月1日及び21日に集落(御岳の南南西約4km)で降灰が確認された。また、10月2日、11月1日及び12月12日に鳴動が確認された。

(お知らせ) 最新の火山活動解説資料は気象庁ホームページの以下のアドレスに掲載しています。

URL http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.htm

(文責: 気象庁地震火山部火山課 輪島久仁子)

○公募等

締切等が過ぎているものも記録のため掲載してあります。

最新の情報につきましては、メーリングリスト等にて随時ご案内しております。

○人事公募

【信州大学理学部理学科地球学コース】

(締切 平成28年2月5日)

公募人員 助教1名

専門分野 岩石学、地球化学、地質学分野

締切 平成28年2月5日必着

着任予定日 平成28年3月1日以降なるべく早い時期

連絡先 makincox@shinshu-u.ac.jp

詳細 URL: <http://www.shinshu-u.ac.jp/faculty/science/recruit/#069548>

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに12月3日送信しました)

【東京大学地震研究所】

1. 公募人員: 年俸制助教(任期付)1名

2. 所属: 採用後に決定

3. 研究分野: 史料地震火山学分野

過去に発生した地震・火山噴火とこれに付随する災害に関する歴史資料を収集・整理するとともに、それに基づき地震・火山現象の長期間にわたる履歴を明らかにする。

将来の地震・火山噴火の発生の予測に資するために、この成果と現代の地震学・火山学的知見を統合して、過去から現在までの活動様式を解明する。前近代の歴史資料を解説する能力を求める。

4. 採用予定時期: 平成28年4月1日以降のできるだけ早い時期

5. 応募資格: 博士の学位を有する者(学位取得見込者を含む)または同等の能力を持つ者

6. 任期: 平成32年3月31日まで(再任はありません)

7. 提出書類: 【提出書類は返却しません】

(1) 東京大学統一履歴書(本学様式をhttp://www.u-tokyo.ac.jp/per01/r01_j.htmlよりダウンロードのうえ使用してください。)

(2) 研究業績リスト(査読の有無を区別すること、投稿中の論文も含む。)

(3) 主要論文の別刷り3編程度(コピー可)

(4) 研究業績の概要(2000字程度)

(5) 今後の研究計画(2000字程度)

(6) 応募者について参考意見をうかがえる方(2名)

の氏名と連絡先と e-mail アドレス

8. 応募締切：平成 28 年 1 月 8 日（金）午後 5 時必着
 9. 問い合わせ先：東京大学地震研究所
 地震火山噴火予知研究推進センター 加藤尚之
 TEL：03-5841-5812 E-mail：nkato@eri.u-tokyo.ac.jp

10. 応募書類提出先：

〒113-0032 東京都文京区弥生 1-1-1

東京大学地震研究所 庶務チーム（人事）宛

封書を用い、表に「史料地震火山学分野 助教 応募書類在中」と朱書きし、書留郵便で送付してください。

◎東京大学は 2009 年 3 月 3 日「男女共同参画加速のための宣言」を発表しました。

この宣言に基づき、教員・研究員の公募の際に、女性の応募を歓迎します。

（上記のお知らせは火山学会メーリングリストに 12 月 3 日送信しました）

【気象庁気象研究所火山研究部】

1. 職名/人員：火山研究部 研究官 1 名
 国家公務員研究職への採用
2. 職務内容：火山活動評価・予測の高度化に関する研究に従事する。
3. 応募資格：
 - (1) 採用時において、博士の学位を有する者
 - (2) 地球物理学あるいは地球化学の分野での観測的アプローチによる火山活動評価・予測に関して、相当の知見と研究業績を持っている者
 - (3) 上記分野の火山観測についての十分な経験を持っている者

次に該当する方は応募できません。

- (1) 国家公務員法第 38 条の規定により国家公務員となることができない者
 - ・成年被後見人、被保佐人（準禁治産者を含む）
 - ・禁錮以上の刑に処せられ、その執行を終わるまでの者又はその刑の執行猶予の期間中の者その他その執行を受けることがなくなるまでの者
 - ・一般職の国家公務員として懲戒免職の処分を受け、その処分の日から 2 年を経過しない者
 - ・日本国憲法又はその下に成立した政府を暴力で破壊することを主張する政党その他の団体を結成し、又はこれに加入した者
 - (2) 国家公務員法第 81 条の 2（定年による退職）に該当する者
4. 公募締切：平成 28 年 1 月 15 日（金）17 時（必着のこと）
5. 提出書類：

- (1) 履歴書（市販の用紙可、写真貼付）1 通
- (2) 学位取得（見込）証明書 1 通
- (3) 主要研究業績一覧表（論文、著書、解説）1 通
- (4) 主要論文の別刷り（5 編以内、複写可）各 1 通
- (5) これまでの研究内容と今後の研究の抱負（3,000 字程度）1 通

6. 書類提出先/照会先：

〒305-0052 つくば市長峰 1-1

気象研究所総務部総務課人事係 秋葉 喜代美

Tel：029-853-8555（直通）

Fax：029-853-8549（総務課）

（提出書類は封筒に「火山研究部研究官応募書類在中」と朱書き書留で送付のこと）

7. 選考方法：気象研究所選考委員会による書類審査（第 1 次）、

面接（第 2 次）（平成 28 年 2 月上旬予定）を経て採用を決定

8. 採否の通知：書面により応募者あてに通知する
 9. 採用時期：平成 28 年 4 月 1 日（予定）
 10. 備考：研究官の職位は大学における助教ポストに相当。任期付ではない。
 11. 注意事項：応募の秘密については厳守します。また、応募書類については、選考の目的に限って使用し、選考終了後は、研究官で採用された方の情報を除き、全ての個人情報では当方で責任を持って処分します。
- （上記のお知らせは火山学会メーリングリストに 12 月 15 日送信しました）

【公益社団法人日本地球惑星科学連合】

2016 年度公益社団法人日本地球惑星科学連合フェローの候補者を募集いたします。

フェローの推薦の締切は 12 月 31 日です。応募の詳細は以下の WEBSITE をご覧ください。

<http://www.jpgu.org/news/fellowship/fellow2016program.html>

（上記のお知らせは火山学会メーリングリストに 12 月 15 日送信しました）

【産業技術総合研究所】

平成 28 年度イノベーションスクール生を募集します。職務内容・応募資格等の詳細については、産総研イノベーションスクールホームページをご参照下さい。

<https://unit.aist.go.jp/inn-s/ci/employment/index.html>

応募締切：平成 28 年 1 月 15 日（金）「必着」

※平成 28 年 1 月に公募説明会を行います。

開催日時については、決定次第、イノベーションスクー

ルホームページにてお知らせいたします。

<http://unit.aist.go.jp/inn-s/ci/index.html>

問い合わせ先：

産業技術総合研究所 イノベーションスクール事務局

電話：029-849-1600

Eメール：school-saiyou-ml@aist.go.jp

URL：<http://unit.aist.go.jp/inn-s/ci/index.html>

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに12月21日送信しました)

【京都大学院理研科附属地球熱施設】

職 種：研究員（時間雇用教職員）

募集人員：1名

勤務場所：附属地球熱学研究施設（大分県別府市）又は
火山研究センター（熊本県阿蘇郡）

応募締切：平成28年2月5日（金）必着

問い合わせ先：ohsawa*bep.vgs.kyoto-u.ac.jp（*を@に変えてください）

詳細URL：<http://www.vgs.kyoto-u.ac.jp/japanese/ko-bo/koubo20151203.pdf>

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに12月24日送信しました)

【大阪市立大学大学院理学研究科・理学部地球学教室】

1. 募集人員：特任講師 2名

2. 所属：大阪市立大学大学院理学研究科・理学部地球学教室

地球学教室に関する情報は、ホームページ (<http://www.sci.osaka-cu.ac.jp>) を参照のこと。

3. 資格：博士の学位を有すること（もしくは平成28年4月1日までに取得の見込みがあること）。

4. 募集分野：

(1) 地球物質進化学講座の分野（1名）

野外における調査に基礎をおき、地球物質進化学分野の教育・研究を積極的に推進する意欲のある方。

(2) 環境地球学講座の分野（1名）

野外における調査・観測に基礎をおき、都市地盤構造学分野の教育・研究（断層、変動地形、地殻構造、地質環境に関する研究など）を積極的に推進する意欲のある方。

5. 職務内容：教育および研究

地質調査法を含む専門科目、および全学共通科目の一部を担当。

6. 職務条件：週25時間勤務、任期制、年次有給休暇および夏季休暇等あり。労働災害補償適用、社会保険

（健康保険および厚生年金保険）非加入。詳細は本学「短時間勤務教職員就業規則」による。

7. 任期：平成28年4月1日から平成29年3月31日まで

8. 必要書類：(1) 履歴書

(2) 論文・著書のリストおよび最近5年間の学会発表リスト

(3) 論文の別刷りあるいはコピー

(4) 研究・教育に関するこれまでの経過と今後の抱負（2000字以内）

9. 締切：平成28年2月1日（月）必着

10. その他：封筒に「特任講師応募」および募集分野（「募集分野（1）」、「募集分野（2）」の何れか）を

朱書きし、書留で郵送してください。応募書類は返却しません。応募書類に含まれる個人情報は本人人事選考のみに使用し、他の目的には一切使用しません。

選考結果は、平成28年2月下旬頃に通知する予定です。選考の過程で必要に応じて面接をおこなう場合があります。この場合、交通費等は応募者の負担となります。

11. 宛先：〒558-8585 大阪市住吉区杉本3-3-138

大阪市立大学大学院理学研究科・理学部

地球学教室教室主任 前島 渉宛

12. 問い合わせ：電話（06）6605-2596

電子メール：maejima@sci.osaka-cu.ac.jp（教室主任）

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに1月4日送信しました)

【京都大学大学院人間・環境学研究科】

募集人員

特定研究員（特定有期雇用教職員）1名

職務内容科学研究費（新学術領域研究）「核-マントルの相互作用と共進化～総合的地球深部科学の創成～」の一環として、高圧実験・化学分析などの手法を用いて地球内部における強親鉄性元素の挙動を解明するための研究を実施する。

雇用期間

平成28年4月1日以降のできるだけ早い時期～平成29年3月31日（雇用期間満了後、1年毎に更新の可能性あり。ただし、最長で平成32年3月31日まで。）

応募締切

平成28年2月8日（月）消印有効

詳細につきましては以下のURLをご覧ください

<http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/about/acceptance/other/koubo/>

ningen_kankyuu/2015/160208_0910.html/at_view/file

問い合わせ先

〒606-8501 京都市左京区吉田二本松町
京都大学大学院人間・環境学研究所科相
関環境学専攻 准教授 小本曾哲

E-mail : kogiso@gaia.h.kyoto-u.ac.jp

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに1月13日送信しました)

○シンポジウム等の開催

【日本学術会議主催 学術フォーラム「防災学術連携体の設立と東日本大震災の総合対応の継承」の開催およびネット中継のお知らせ】

日本学術会議主催 学術フォーラム「防災学術連携体の設立と東日本大震災の総合対応の継承」が開催されます。会場は満席のためすでに参加受け付けは締め切られておりますが、フォーラムの内容は、1月9日(土)13時から17時30分まで、ネット中継が行われます。

詳細は「防災学術連携体」のホームページ <http://janet-dr.com/> をご覧ください。また、当ホームページに当日の冊子も掲載しておりますので合わせてご覧ください。「防災学術連携体」は、日本火山学会も参加する「防災・減災」に関する学術団体のネットワークで、1月9日に設立されます。

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに1月7日送信しました)

【国際火山噴火史情報研究集会のお知らせ】

国際火山噴火史情報研究集会(参加費:無料)を下記の通り開催します。

問い合わせ先:奥野 充 (okuno@fukuoka-u.ac.jp)

=====

日時:2016年1月23日(土)~24日(日)

会場:23日:福岡大学七隈キャンパス18号館2階1826講義室

24日:熊本大学黒髪南地区工学部1号館3階スタジオ

主催:西日本火山活動研究集会, 福岡大学産学官連携研究機関国際火山噴火史情報研究所, 熊本大学大学院自然科学研究科附属減災型社会システム実践教育研究センター

後援:京都大学大学院理学研究科附属地球熱学研究施設, 阿蘇火山博物館, 阿蘇ジオパーク推進協議会

プログラム (<https://www.facebook.com/EHAIReseachCenter/>)

1月23日(土)「九州の火山学の将来を考える—基礎研究から防災までの人材育成」

9時~12時40分(座長:稲倉, 藤木, 中西, 堀川)

1-01. 藤木利之(岡山理大)・和田恵治(北海道教育大)・佐藤鋭一(神戸大)・奥野 充(福岡大)「火山噴火の植生へのインパクトと回復プロセス」

1-02. 高橋伸弥・奥村 勝・鶴田直之(福岡大)「じおログモバイル:火山噴火史情報データベースを利用したモバイルアプリケーションの開発」

1-03. 奥村 勝・矢羽田優輝・高橋伸弥・鶴田直之(福岡大)・鳥井真之(熊本大)「ジオパーク向けガイドアプリケーションの現地評価報告」

1-04. 堀川義之(福岡大)「国東半島, 両子火山群のマグマティズム」

1-05. 藤田詩織(九州大)「大量マグマの蓄積による地殻変動と歪・応力の推定」

1-06. 稲倉寛仁(西日本技術開発)「火山地域における Sentinel-1 による干渉 SAR 解析」

1-07. 山崎圭二(福岡大)・鳥井真之(熊本大)・中西利典(福岡大)・エリクソン バリソ・ダニコリペラ・ロプリム・キャシー バガイ・アルトロダグ(PHIVOLCS)・中村俊夫(名古屋大)・鹿島 薫(九州大)・檀原 徹(京都FT)・ホンワン(KIGAM)・奥野 充(福岡大)「フィリピン, ルソン島中央部のパイタン湖のコア試料の層序と年代」

1-08. 椎原航介・長谷中利昭(熊本大)・安田 敦・外西奈津美(東京大)・森 康(北九州自然史・歴史博)「大峰スコリア中のメルト包有物の化学組成:阿蘇-4火砕噴火直前のマグマ供給系」

1-09. 川口允孝・長谷中利昭(熊本大)・森 康(北九州自然史・歴史博)「阿蘇中央火口丘群北西部完新世火山噴出物の岩石記載および化学組成」

1-10. 小林哲夫(鹿児島大)・アグンハリジョコ・アイワヤンワルマダ(ガジャマダ大)・奥野 充(福岡大)・渡邊公一郎(九州大)・田口幸洋(福岡大)「バリ島北部, バツールカルデラのベネロカン噴火の推移」

1-11. 奥野 充(福岡大)・アグンハリジョコ・アイワヤンワルマダ(ガジャマダ大)・渡邊公一郎(九州大)・中村俊夫(名古屋大)・田口幸洋(福岡大)・小林哲夫(鹿児島大)「バリ島北部, プヤン・プラタンカルデラの後カルデラ火山の噴火史」

13時30分~17時(座長:奥野, 宝田, 西園)

2-01. 宝田晋治(産総研)「G-EVER火山災害予測支援システム, アジア太平洋地域地震火山災害情報

- 図プロジェクトによる火山災害軽減」
- 2-02. ホン ワン・パク ジュンフン・パク キュジュン・リー ジョンゴル・リー ユンス (KIGAM)「ウイグルマッチング法による白頭山の噴火史の高精度解析」
- 2-03. 土志田正二 (消防庁消防研)「日本全国の地すべり分布の定量的評価」
- 2-04. 中村洋介 (福島大)「教員志望者を対象とした、これからの福島の復興教育を担う人材育成」
- 2-05. 瀬戸真之・高木 亨 (福島大)「海外の人材育成に日本の災害対応事例が果たす役割」
- 2-06. 長谷中利昭 (熊本大)「火山学における人材育成とは？」
- 2-07. 清水 洋 (九州大)「火山観測研究と人材育成」
- 2-08. 奥野 充・小林哲夫 (福岡大)「噴火史データベースを研究進展にどう利用するか：基礎データを大切に作る国際誌の提案」
- 2-09. 西園幸久 (西日本技術開発)「科学と技術の融合と社会が求める“専門家”人材像」
- 16 時 30 分～【総合討論】「九州の火山学の将来を考える—基礎研究から防災までの人材育成」
- 1 月 24 日 (日)「阿蘇カルデラでの防災・減災の取り組み」
- 9 時～12 時 (座長：鳥井, 西山, 竹内, 鶴田)
- 3-01. 宮縁育夫 (熊本大)「阿蘇火山中岳の活動史と 2014～2015 年噴火」
- 3-02. 永田紘樹 (阿蘇 GP)・長岡千香子 (熊本大)・池辺伸一郎 (阿蘇火山博)・喜多敏博・鳥井真之・竹内裕希子 (熊本大)「地域減災に対してジオパークのネットワーク活動が果たす意義—熊本大学と阿蘇ユネスコグローバルジオパークの連携—」
- 3-03. 長岡千香子 (熊本大)・永田紘樹 (阿蘇 GP)・竹内裕希子・鳥井真之・喜多敏博 (熊本大)「阿蘇ジオパークについて学ぶための e ラーニング設計」
- 3-04. 竹内裕希子・稲本義人「阿蘇カルデラにおける学校防災教育の展開例」
- 3-05. 吉田 護 (熊本大)「カタストロフリスクに対する社会的関心と危機管理に関する試行的考察—火山災害を対象として—」
- 3-06. 西山賢一 (徳島大)・鳥井真之 (熊本大)・横田修一郎 (鳥根大)・若月 強 (防災科研)・井上弦 (埼玉大)・中尾賢一 (徳島県博)・星出和裕 (熊本県)「阿蘇カルデラ斜面における斜面崩壊・土石流の発生頻度の推定」
- 3-07. 鶴田直之・奥村 勝・高橋伸弥・奥野 充 (福岡大)・鳥井真之 (熊本大)・稲倉寛仁 (西日本技術開発)「知識基盤社会における多目的利用が可能な火山露頭データベースの構築」
- 3-08. 田中和広 (山口大)「土石流を例とした減災のためのハザードマップ」
- 13 時～17 時 (座長：松田, 鳥井, 稲倉, 奥野)
- 4-01. 岡田 弘 (北海道大/CeMI)「火山噴火の予知と減災とははざま…ネバーアゲインの減災協働への一世紀」
- 4-02. 横田修一郎 (鳥根大)「自然災害の軽減に向けた地域社会構築への課題」
- 4-03. 井上秀穂・西 正儀 (福岡管区气象台)「阿蘇山火山防災連絡事務所の火山監視・観測業務について」
- 4-04. 大倉敬宏 (京都大)「京都大学・火山研究センターの取り組み」
- 4-05. 池辺伸一郎 (阿蘇火山博)・永田紘樹 (阿蘇 GP)・渡辺一徳 (阿蘇火山博)「阿蘇中岳, 前回 (1988-95) と今回の活動対比と阿蘇火山博物館の役割」
- 4-06. 松田泰治・鳥井真之 (熊本大)「阿蘇火山の減災・防災についての熊本大学減災センターでの取り組み」
- 4-07. 市原敏博 (阿蘇市)「阿蘇火山防災会議協議会の活動について」
- 4-08. 仲田裕一郎 (熊本県)「阿蘇火山噴火に対する土砂災害防止対策について」
- 4-09. 小森田直樹 (熊本県)「熊本県における阿蘇火山防災対策について」
- 16 時～【総合討論】「阿蘇カルデラでの防災・減災の取り組み」
- (上記のお知らせは火山学会メーリングリストに 1 月 8 日送信しました)
- 【『ブルーアース 2016』開催について】
- 国立研究開発法人海洋研究開発機構 (以下「JAMSTEC」) は, JAMSTEC の船舶等で得られた研究成果について, 研究分野の枠を越えた情報交換の場を提供することを目的として「ブルーアース 2016」シンポジウムを開催致します。
- 開催日時：平成 28 年 3 月 8 (火) 10:00～17:45 (9:30 開場)
平成 28 年 3 月 9 (水) 10:00～17:40 (9:30 開場)
 - 開催場所：東京海洋大学 品川キャンパス
 - 入場料：無料 (事前申込不要) 要旨集を会場配布いたします。

4. ホームページ：<http://www.jamstec.go.jp/maritec/jblueearth/2016/program.html>
(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに2月10日送信しました)

【海洋と地球の学校 2016 開催のお知らせ】

日時：2016年3月26日(土)～28日(月)
場所：オーエンス泉岳自然ふれあい館(宮城県仙台市)
詳細：海洋と地球の学校 2016 ホームページ
(<http://kaiyotochikyunogakko-2016.jimdo.com/>)
問い合わせ先：海洋と地球の学校実行委員会
(kaiyotochikyunogakko@gmail.com)
(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに2月10日送信しました)

○地球惑星科学連合大会関係

【JpGU2016・セッションのご案内】

**【地球惑星科学におけるレオロジーと破壊・摩擦の物理】
(S-CG58)**

本セッションはこれまでと同様に JpGU ならではの各専門領域を越えた活発なセッションを目指します。本セッションは、変形・流動・破壊の物理という観点から固体地球惑星科学全体を見渡すことにより、各専門領域間の相互交流を目指しています。各専門領域・対象・手法を越えて研究者が集い議論することにより、問題を掘り下げ、地球惑星ダイナミクスについての理解を深めることを目指します。表層・地殻・マントルからマグマに至るまで、地震・火山・深部・浅部・他の惑星・衛星における変形・流動・破壊について、室内実験・数値実験・理論・観測・フィールド観察などにもとづいたさまざまな研究・幅広い話題の投稿を募集します。

今年度の招待講演は以下の方々

- ・Alexandre Schubnel (Ecole Normale Supérieure)
- ・並木敦子(広島大)
- ・福田惇一(Texas A&M)

詳細は大会ホームページをご覧ください

(http://jpgu.org/meeting_2016/)

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに1月8日送信しました)

【JpGU2016・セッションのご案内】

火山学会会員の皆さんへ

今年の地球惑星科学連合大会で下記のセッションを開催します。

会員の皆さんから多くの投稿を歓迎いたします。セッション駒割によると5月23日月曜の第2コマ、3コマに

開催の予定です。

S-CG62 巨大地震と火山活動：火山活性化過程の基礎研究

コンピーナー：高橋栄一、中川光弘、佐竹健治、市原美恵、下司信夫

東北地方太平洋沖地震により日本列島にかかる水平圧縮応力場が大きく変化し地殻内をマグマが通りやすくなったため、日本列島の火山活動が長期的に活発化する可能性が指摘されている。本セッションでは南海トラフの宝永地震と富士火山の宝永噴火、17世紀初頭に千島弧で起きた巨大地震とそれにより励起された可能性のある北海道南西部の火山活動など、巨大地震とそれに励起された火山活動の事例を参考に、巨大地震による火山活動活性化過程の解明を目指す。3.11地震以後活発化が心配される東北地方などの火山活動の長期変化とそのプロセスの解明など将来の火山活動を予測するための基礎研究を歓迎する。火山の深部構造とそのダイナミクス、特に高温の玄武岩マグマの注入による休眠中のマグマ溜りの熱的活性化過程は重要な研究対象である。火山学、地震学、測地学、地質学、岩石鉱物学、沈み込み帯学など幅広い研究分野からの学際的な研究発表を期待する。

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに1月19日送信しました)

【JpGU2016・セッションのご案内】

日本火山学会会員の皆様

今年の地球惑星連合大会で下記のセッションを開催します。

会員の皆様もふるってご参加ください。

S-IT10 マントルブルームは存在するのか？

(Do plumes exist?)

開催日 5月26日午前

コンピーナー：真島英壽, Gillian R. Foulger, 趙 大鵬

OIB型玄武岩の噴出によって代表される特異な火山活動が、地球深部からのマントルブルームに由来するか否かというブルーム論争は、地球科学分野において現在進行中の論争の中で、最も重要な論争である。

また、ブルーム論争は単に地球のダイナミクスの論争というだけでなく、堆積学、古生物学、岩石学、地球化学、地質年代学、地震学、地球電磁気学、地球熱学、測地学など、地球科学の極めて多様な分野が関わり、それぞれが他分野の解釈に影響し合っているという点に特徴がある。さらに、この論争は科学哲学にとっても興味深い題材であり、学術用語の定義と用法や、仮説の導出過程はいかにあるべきかなどの地球科学の方法論として

も示唆にとんでいる。これらの特徴から、特に地球科学の扉を開いたばかりの若手研究者にとって、ブルーム論争は有益なものである。

本セッションでは、ホットスポット型火山活動の成因とそれに関連する現象について、さまざまな分野と見地からの講演を歓迎する。ブルームに関連づけられてきた、背弧拡大、プレート運動、堆積盆形成、地殻隆起など、魅力的で挑戦的なこの論争に関わるすべての現象についての講演も歓迎する。

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに2月1日送信しました)

【JpGU2016・セッションのご案内】

連合大会ではセッションが異なれば複数の投稿が出来ます。(早期締切は2月3日、最終締切は2月18日)。

5月22日(日)午後

S-SS29「地震動・地殻変動・火山データの即時把握・即時解析・即時予測」

(代表コンビーナ:干場充之(気象研究所))

地震発生後に地震動や地殻変動の状況をリアルタイムに把握し、解析を行い、それに基づき、未来予測することが地震や津波、火山の防災/減災につながるものと期待されている。これまで、津波の即時警報や緊急地震速報などへの応用がなされてきた。また、火山においても、最近、噴火速報の運用も始まった。しかし、東北地方太平洋沖地震(Mw9.0)などにより、従来の手法の弱点がいくつか明らかになっている。

本セッションでは、(準)リアルタイムでの地震動や地殻変動、火山データの即時把握と解析の新しい考え方、手法、応用、そして、地震や津波、火山の防災/減災に向けた即時予測についての研究成果について議論する。

http://www.jpgu.org/meeting_2016/session_list/detail/S-SS29.html

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに2月1日送信しました)

【JpGU2016・セッションのご案内】

昨年度まで「火山噴火のダイナミクスと素過程」として開催していたセッションの一部と気象分野のジョイントセッションとなります。「固体地球科学(S)」ではなく「領域外・複合領域(M)」の区分になっておりますのでご注意ください。

M-IS26 火山噴煙・積乱雲のモデリングとリモートセンシング

コンビーナ: 鈴木雄治郎・前野 深・佐藤英一・前坂

剛

スコープ: 火山噴煙(噴煙柱・火砕流・傘型噴煙)と積乱雲は、浮力を原動力とする大気中でのダイナミックな現象であり、降灰・降水といった粒子の浮遊・沈降に関する類似の物理過程を含む。火山噴煙は火口での噴火条件を、積乱雲はその発生場を反映するため、それらの物理過程を正確に捉えるモデリングと時間・空間分解能の高い観測が推移予測に必須となる。特に観測に関しては、気象レーダや気象衛星などのリモートセンシング技術の発展により積乱雲の詳細な監視が可能になってきており、火山噴煙への応用も期待されている。本セッションでは、火山噴煙と積乱雲のモデリング・観測研究の動向を紹介し、気象学、火山学、リモートセンシングなど異種の専門家が一同に介して共通点・相違点を議論することで、それぞれの研究の発展を目指す。

また、火山噴煙・積乱雲ダイナミクスの理解を目的とした、実験的アプローチや堆積学的・物質科学的アプローチも歓迎する。

招待講演予定: 林 勇太(気象庁気象衛星センター)・宮縁育夫(熊本大学)

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに2月1日送信しました)

【JpGU2016・セッションのご案内】

日本火山学会の皆様

昨年度まで開催されていた「火山噴火のダイナミクスと素過程」等で進められた噴火現象の理解を、噴火の即時理解へつなげるための議論を行うことを目的としたセッションを開催します。奮ってご参加ください。

S-VC49 火山現象の即時理解:地球物理・物質科学観測と物理モデルの統合

奥村 聡・小園誠史・青木陽介

地表における火山噴火現象の高時間分解能観測は、噴火メカニズムの即時理解と噴火推移の予測のために重要である。近年、傾斜計・歪計・GNSS・SARなどの地表変動の観測データと、進展著しいマグマだまりや火道流の物理モデルを組み合わせることで、噴火中のマグマだまり圧力変化やマグマ物性などを引き出すことが可能となりつつある。さらに、地質学的手法から推定される観測量(噴出量・率など)を利用することで噴火推移を予想する方法論の開発や、火山噴出物の高時間分解能サンプリングから火道内やマグマだまりの状態変化を明らかにする試みも進められている。

本セッションでは、地球物理・物質科学観測に、理論的手法やマグマ物性の観点を組み合わせることで、今起きつつある火山噴火のメカニズムを即時に理解すること

を目指す。また多項目化している観測量をどのように噴火メカニズムの理解へつなげるか議論したい。

招待講演者

西村太志(東北大学大学院理学研究科地球物理学専攻)

下司信夫(産業技術総合研究所地質調査総合センター)

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに2月2日送信しました)

【JpGU2016・セッションのご案内】

5/24 (火) AM1・AM2

S-GL40「泥火山」の新しい研究展開に向けて

本セッションは、2007年JpGUセッション「泥火山と泥噴出現象およびその応用地球科学的評価」および地学雑誌特集号「泥火山—その実体と応用地球科学的意義—」と、2015年日本地質学会トピックセッション「『泥火山』の新しい研究展開に向けて」の発展的継承を目的として、本年度新たに立ち上げました。本セッションではこれまでの泥火山研究を総括するとともに、地球物理、地球化学、地質、(微)生物研究ほかの最前線にも触れ、今後の新たな研究展望を描きたいと考えております。なお、本セッションは、地質学会・現行地質過程部会の共催により開催されております。

本セッションでは、泥火山現象にまつわる知見を持ち寄り、まずは泥火山現象の多様性を把握することを目的としています。国内外を問わず、多様なフィールドにおける物理探査(海底、湖底および陸上)、地質構造(露頭観察や掘削など)、地球化学的アプローチ(各種同位体、有機地球化学、粘土鉱物の組成など)、物性やシミュレーションなど、多様な手法による地下深部物質・流体の移動に焦点を当てた研究成果をご紹介していただきたいと考えております。さらに、本セッションでは、泥火山

と地震活動との関係、地球生命圏の限界把握、あるいは資源的価値に関する議論など、泥火山の噴出活動がもたらす諸現象の解明にとどまらず、それらの利活用に関する議論についても深めてゆきたいと考えております。

奮ってご投稿およびご参加をくださり、熱いご議論をお願いします。

http://www.jpгу.org/meeting_2016/submission.html

コンピーナ：土岐知弘(琉球大学)、浅田美穂(JAMSTEC)、井尻 暁(JAMSTEC)、森田澄人(AIST)、辻 健(九州大学)、喜岡 新(AORI)、田中和広(山口大学)

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに2月2日送信しました)

【JpGU2016・セッションのご案内】

火山学会の皆様

本年も下記のセッションを開催します。

皆様、奮ってご参加ください。

S-VC46 火山防災の基礎と応用

5月23日 月曜日

コンピーナ：吉本充宏(山梨県富士山科学研究所)・萬年一剛(神奈川県温泉地学研究所)・宝田晋治(産業技術総合研究所)・佐々木寿(アジア航測株式会社)

火山災害には、噴煙・溶岩流・火砕流・岩屑なだれ・土石流など多様な要因があり、その防災にはシミュレーション技術、GIS技術、防災情報の受け手である住民への効果的な伝達技術など、広範囲にわたる技術と知識の整備と共有が必要である。本セッションでは、火山防災に向けた理論や技術開発、適用事例、火山災害事例に関する発表を募る。また、データベースの開発や、教育・啓発活動などに関連する発表も歓迎する。

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに2月2日送信しました)

【2016年地球惑星連合大会の早期締切(本日)】

2016年地球惑星連合大会の早期締めきりは、本日(2月3日)の24:00です(最終締切は、2016年2月18日(木)17:00)。

火山学のセッションは、以下の5つが開催されます。他にも関連するセッションもありますので、皆さんのご投稿をお待ちしております。

S-VC45「火山の熱水系」

S-VC46「火山防災の基礎と応用」

S-VC47「活動的火山」

S-VC48「火山・火成活動と長期予測」

S-VC49「火山現象の即時理解：地球物理・物質科学観測と物理モデルの統合」

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに2月3日送信しました)

【2016年地球惑星連合大会の早期締切(再送)】

※ご案内のセッションに不足がございましたので再度のご連絡です。

2016年地球惑星連合大会の早期締めきりは、本日(2月3日)の24:00です(最終締切は、2016年2月18日(木)17:00)。

火山学のセッションは、以下の6つが開催されます。

他にも関連するセッションもありますので、皆さんのご投稿をお待ちしております。

- S-VC45 「火山の熱水系」
- S-VC46 「火山防災の基礎と応用」
- S-VC47 「活動的火山」
- S-VC48 「火山・火成活動と長期予測」
- S-VC49 「火山現象の即時理解：地球物理・物質科学観測と物理モデルの統合」
- M-IS26 「火山噴煙・積乱雲のモデリングとリモートセンシング」

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに2月3日送信しました)

○その他のお知らせ

【高レベル放射性廃棄物地層処分技術 WG 中間整理についての専門家意見募集】

総合資源エネルギー調査会地層処分技術 WG では、高レベル放射性廃棄物の最終処分に関し「科学的により適性の高いと考えられる地域(科学的有望地)」の具体的な要件・基準について、総合資源エネルギー調査会にて、専門家の更なる検討を進める。」との国の方針のもと、この科学的有望地の要件・基準について、地球科学的な観点から、技術的(工学的)対応可能性を含めた議論を進め、昨年12月にこれまでの議論の成果を中間整理として公表しました。

今般、中間整理の学術的知見及び利用する文献・データの妥当性について、地層処分技術に関連する学会に所属する者や、関連する論文・報告書等の公開文献の執筆経験を有する者など、本分野についての高い専門性を有する専門家からの御意見を募集します。

詳細は以下のウェブサイトをご覧ください。

http://www.enecho.meti.go.jp/category/electricity_and_gas/nuclear/rw/gijutsu-iken.html

また、地層処分技術 WG は学会横断的な説明会を2月に開催予定です。当該説明会の詳細については、関係学会を通じて周知させていただきます。

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに2月1日送信しました)

【高レベル放射性廃棄物地層処分技術 WG 中間整理についての説明会および専門家意見募集】

総合資源エネルギー調査会地層処分技術 WG では、高レベル放射性廃棄物の最終処分に関し「科学的により適性の高いと考えられる地域(科学的有望地)」の具体的な要件・基準について、総合資源エネルギー調査会にて、専門家の更なる検討を進める。」との国の方針のもと、この科学的有望地の要件・基準について、地球科学的な観点から、技術的(工学的)対応可能性を含めた議論を進

め、昨年12月にこれまでの議論の成果を中間整理として公表しました。地層処分技術 WG は本中間整理について、学会横断的な説明会を以下の日程において、資源エネルギー庁にて開催予定です。日時：2月29日(月)13:30(開始予定) 場所：経済産業省(詳細未定)

※出席ご希望の方は、以下のメール宛てに、①企業・団体名、②所属・役職、③登録学会、④氏名(漢字)、⑤氏名(フリガナ)、⑥メールアドレス、⑦電話番号をご記入の上、2月19日(金)までにご登録下さい。詳細等については、ご登録いただいたメールアドレス宛に別途御連絡をさせていただきます。メールアドレス：chisoushobun-setsumeikai@meti.go.jp

今般、中間整理の学術的知見及び利用する文献・データの妥当性について、地層処分技術に関連する学会に所属する者や、関連する論文・報告書等の公開文献の執筆経験を有する者など、本分野についての高い専門性を有する専門家からの御意見を募集します。詳細は以下のウェブサイトをご覧ください。http://www.enecho.meti.go.jp/category/electricity_and_gas/nuclear/rw/gijutsu-iken.html (上記のお知らせは火山学会メーリングリストに2月2日送信しました)

○EPS 関係

【EPS 割引価格を受けるに当たっての注意事項】

火山学会会員各位

EPS 誌に論文掲載の際、火山学会員は割引価格を受けることができます。

この件についての案内は2年以上前になりますので、再度ご連絡します。

投稿時には添付ファイルの要領([火山学会:343]2013年9月に配布されたものと同じ)に従ってください。“投稿時”に手続きをとらない場合、割引価格を受けられなくなりますので、ご注意ください。

他学会担当 西村太志

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに12月21日送信しました)

【EPS 投稿時の割引について】

火山学会の会員のみなさま

2016年1月1日より、EPS 投稿時の Submission Code が変わります。

※[火山学会:634]でお送りしたものは、2015年12月31日まで有効ですが2016年1月1日からは使えません。ご注意ください。

会員割引をうけるためには、“投稿時”にあらわれる Payment Options の選択時に入力が必要となります。

<http://www.earth-planets-space.org/ja/submission.html>

投稿する論文タイプにより Submission Code が異なります。

◎会員割引コード

Full Papers/Technical Reports: TC01344919

40% discount (540 EUR)

Letters: TC1600192115

60% discount (360 EUR)

西村@他学会担当

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに12月28日送信しました)

【Contents Service: Earth, Planets and Space, Vol. 67 October & November 2015】

=====
Earth, Planets and Space (EPS)

Contents: Vol. 67

Published: October & November 2015

Manuscript No. 161-191

<http://www.earth-planets-space.com/content>
=====

Letter

Frequency distributions of magnetic storms and SI+SSC-derived records at Kakioka, Memambetsu, and Kanoya Yasuhiro Minamoto, Shigeru Fujita, Masahiro Hara Earth, Planets and Space 2015, 67:191 (28 November 2015)

<http://www.earth-planets-space.com/content/67/1/191>

Frontier letter

IMF-By dependence of transient ionospheric flow perturbation associated with sudden impulses: SuperDARN observations Tomoaki Hori, Atsuki Shinbori, Shigeru Fujita, Nozomu Nishitani Earth, Planets and Space 2015, 67:190 (25 November 2015)

<http://www.earth-planets-space.com/content/67/1/190>

Full paper

Spatiotemporal analysis of GPS time series in vertical direction using independent component analysis Bin Liu, Wujiao Dai, Wei Peng, Xiaolin Meng Earth, Planets and Space 2015, 67:189 (25 November 2015)

<http://www.earth-planets-space.com/content/67/1/189>

Erratum

Erratum to: Problems with mapping the auroral oval and magnetospheric substorms E. Antonova, V. Vorobjev, I. Kirpichev, O. Yagodkina, M. Stepanova Earth, Planets and Space 2015, 67:188 (25 November 2015)

<http://www.earth-planets-space.com/content/67/1/188>

Letter

Source mechanism of a VLP event immediately before the 2014 eruption of Mt. Ontake, Japan Yuta Maeda, Aitaro Kato, Toshiko Terakawa, Yoshiko Yamanaka, Shinichiro Horikawa, Kenjiro Matsui, Takashi Okuda Earth, Planets and Space 2015, 67:187 (24 November 2015)

<http://www.earth-planets-space.com/content/67/1/187>

Full paper

NmF2 and hmF2 measurements at 95° E and 127° E around the EIA northern crest during 2010-2014 Bitap Kalita, Pradip Bhuyan, Akimasa Yoshikawa Earth, Planets and Space 2015, 67:186 (19 November 2015)

<http://www.earth-planets-space.com/content/67/1/186>

Letter

Tsunami-induced magnetic fields detected at Chichijima Island before the arrival of the 2011 Tohoku earthquake tsunami Hidee Tatehata, Hiroshi Ichihara, Yozo Hamano Earth, Planets and Space 2015, 67:185 (19 November 2015)

<http://www.earth-planets-space.com/content/67/1/185>

Letter

Non-volcanic crustal movements of the northernmost Philippine Sea plate detected by the GPS-acoustic seafloor positioning Shun-ichi Watanabe, Tadashi Ishikawa, Yusuke Yokota Earth, Planets and Space 2015, 67:184 (11 November 2015)

<http://www.earth-planets-space.com/content/67/1/184>

Technical report

UDECON: deconvolution optimization software for restoring high-resolution records from pass-through paleomagnetic measurements Chuang Xuan, Hirokuni Oda Earth, Planets and Space 2015, 67:183 (11 November 2015)

<http://www.earth-planets-space.com/content/67/1/183>

Full paper

Eastward-expanding auroral surges observed in the post-midnight sector during a multiple-onset substorm Yoshimasa Tanaka, Yasunobu Ogawa, Akira Kadokura, Noora Partamies, Daniel Whiter, Carl-Fredrik Enell, Urban Brändström, Tima Sergienko, Björn Gustavsson, Alexander Kozlovsky, Hiroshi Miyaoka, Akimasa Yoshikawa Earth, Planets and Space 2015, 67:182 (9 November 2015)

<http://www.earth-planets-space.com/content/67/1/182>

Full paper

Automated analysis of Kokee-Wetzell Intensive VLBI sessions—algorithms, results, and recommendations Niko Kareinen, Thomas Hobiger, Rüdiger Haas Earth, Planets and Space 2015, 67:181 (5 November 2015)

- <http://www.earth-planets-space.com/content/67/1/181>
Full paper
Mass eruption rates in pulsating eruptions estimated from video analysis of the gas thrust-buoyancy transition—a case study of the 2010 eruption of Eyjafjallajökull, Iceland Tobias Dürig, Magnús Gudmundsson, Sven Karmann, Bernd Zimanowski, Pierfrancesco Dellino, Martin Rietze, Ralf Büttner *Earth, Planets and Space* 2015, 67:180 (5 November 2015)
<http://www.earth-planets-space.com/content/67/1/180>
Letter
Triggered tremors beneath the seismogenic zone of an active fault zone, Kyushu, Japan Masahiro Miyazaki, Satoshi Matsumoto, Hiroshi Shimizu *Earth, Planets and Space* 2015, 67:179 (4 November 2015)
<http://www.earth-planets-space.com/content/67/1/179>
Frontier letter
An approach to source characterization of tremor signals associated with eruptions and lahars Hiroyuki Kumagai, Patricia Mothes, Mario Ruiz, Yuta Maeda *Earth, Planets and Space* 2015, 67:178 (4 November 2015)
<http://www.earth-planets-space.com/content/67/1/178>
Full paper
Daytime gigahertz scintillations near magnetic equator: relationship to blanketing sporadic E and gradient-drift instability Aramesh Seif, Roland Tsunoda, Mardina Abdullah, Alina Hasbi *Earth, Planets and Space* 2015, 67:177 (4 November 2015)
<http://www.earth-planets-space.com/content/67/1/177>
Full paper
Estimation of shallow S-wave velocity structure and site response characteristics by microtremor array measurements in Tekirdag region, NW Turkey Ozlem Karagoz, Kosuke Chimoto, Seckin Citak, Oguz Ozel, Hiroaki Yamanaka, Ken Hatayama *Earth, Planets and Space* 2015, 67:176 (4 November 2015)
<http://www.earth-planets-space.com/content/67/1/176>
Full paper
Migration of earthquakes with a small stress drop in the Tanzawa Mountains, Japan Takuji Yamada, Yohei Yukutake, Toshiko Terakawa, Ryuta Arai *Earth, Planets and Space* 2015, 67:175 (28 October 2015)
<http://www.earth-planets-space.com/content/67/1/175>
Full paper
Total (fumarolic + diffuse soil) CO₂ output from Furnas volcano M. Pedone, F. Viveiros, A. Aiuppa, G. Giudice, F. Grassa, A. Gagliano, V. Francofonte, T. Ferreira *Earth, Planets and Space* 2015, 67:174 (26 October 2015)
<http://www.earth-planets-space.com/content/67/1/174>
Full paper
Global maps of the magnetic thickness and magnetization of the Earth's lithosphere Foteini Vervelidou, Erwan Thébault *Earth, Planets and Space* 2015, 67:173 (26 October 2015)
<http://www.earth-planets-space.com/content/67/1/173>
Letter
Spatial heterogeneities in tectonic stress in Kyushu, Japan and their relation to a major shear zone Satoshi Matsumoto, Shigeru Nakao, Takahiro Ohkura, Masahiro Miyazaki, Hiroshi Shimizu, Yuki Abe, Hiroyuki Inoue, Manami Nakamoto, Shin Yoshikawa, Yusuke Yamashita *Earth, Planets and Space* 2015, 67:172 (23 October 2015)
<http://www.earth-planets-space.com/content/67/1/172>
Full paper
Magnetic properties of surficial sediments in Lake Ogawara on the Pacific coast of northeastern Japan: spatial variability and correlation with brackish water stratification Akira Hayashida, Ryoma Nakano, Aya Nagashima, Koji Seto, Kazuyoshi Yamada, Hitoshi Yonenobu *Earth, Planets and Space* 2015, 67:171 (23 October 2015)
<http://www.earth-planets-space.com/content/67/1/171>
Full paper
PC index as a proxy of the solar wind energy that entered into the magnetosphere: 2. Relation to the interplanetary electric field E_{KL} before substorm onset OA Troshichev, DA Sormakov *Earth, Planets and Space* 2015, 67:170 (21 October 2015)
<http://www.earth-planets-space.com/content/67/1/170>
Full paper
A sedimentary paleomagnetic record of the upper Jaramillo transition from the Lantian Basin in China Yi Wu, Tingping Ouyang, Shifan Qiu, Zhiguo Rao, Zhaoyu Zhu *Earth, Planets and Space* 2015, 67:169 (20 October 2015)
<http://www.earth-planets-space.com/content/67/1/169>
Full paper
Relationship between wave-like auroral arcs and Pi2 disturbances in plasma sheet prior to substorm onset Tzu-Fang Chang, Chio-Zong Cheng *Earth, Planets and Space* 2015, 67:168 (13 October 2015)
<http://www.earth-planets-space.com/content/67/1/168>
Letter
Investigation on relationship between epicentral distance

and growth curve of initial P-wave propagating in local heterogeneous media for earthquake early warning system Kyosuke Okamoto, Seiji Tsuno Earth, Planets and Space 2015, 67:167 (13 October 2015)

<http://www.earth-planets-space.com/content/67/1/167>

Letter

Problems with mapping the auroral oval and magnetospheric substorms E E Antonova, V G Vorobjev, I P Kirpichev, O I Yagodkina, M V Stepanova Earth, Planets and Space 2015, 67:166 (12 October 2015)

<http://www.earth-planets-space.com/content/67/1/166>

Full paper

Full-particle simulations of instabilities in a thin current sheet of the magnetospheric system prior to substorm onset Hirotochi Uchino, Shinobu Machida Earth, Planets and Space 2015, 67:165 (8 October 2015)

<http://www.earth-planets-space.com/content/67/1/165>

Full paper

Numerical earthquake model of the 20 April 2015 southern Ryukyu subduction zone M6.4 event and its impact on seismic hazard assessment Shiann-Jong Lee Earth, Planets and Space 2015, 67:164 (8 October 2015)

<http://www.earth-planets-space.com/content/67/1/164>

Full paper

Seasonal variations of nighttime D-region ionosphere in 2013 solar maximum observed from a low-latitude station Le Tan, Nguyen Thu, Tran Ha, Quang Nguyen-Luong Earth, Planets and Space 2015, 67:163 (5 October 2015)

<http://www.earth-planets-space.com/content/67/1/163>

Letter

Strong induction effects during the substorm on 27 August 2001 V. Mishin, V. Mishin, S. Lunyushkin, Z. Pu, C. Wang Earth, Planets and Space 2015, 67:162 (5 October 2015)

<http://www.earth-planets-space.com/content/67/1/162>

Full paper

Recovery of the 6-year signal in length of day and its long-term decreasing trend Pengshuo Duan, Genyou Liu, Lintao Liu, Xiaogang Hu, Xiaoguang Hao, Yong Huang, Zhimin Zhang, Binbin Wang Earth, Planets and Space 2015, 67:161 (5 October 2015)

<http://www.earth-planets-space.com/content/67/1/161>

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに1月13日送信しました)

○日本火山学会・理事選挙関係

【特定非営利活動法人 日本火山学会 理事選挙立候補受付のお知らせ】

日本火山学会の現役員の任期が2016年6月末をもって満了となりますので、本学会役員(理事)の選挙を行います。次期の理事会が対応しなければならない国内外の様々な任務を考慮し、現理事会では次期理事の選出数を15名とすることにしました。つきましては、下記のとおり要領にしたがって理事候補者の受付を行います。立候補は、自薦他薦を問いませんが、候補者(被選挙人)は維持会員に限られます。

記

1. 被選挙人：維持会員(日本火山学会会員名簿をご参照ください)

特定非営利活動法人日本火山学会理事選挙規程第3条により、被選挙人の資格は、維持会員に限られます。特定非営利活動法人日本火山学会定款第16条により、再任を妨げません。

2. 立候補：立候補は自薦他薦を問いません。立候補者または推薦者は、候補者および本学会員3名からなる推薦者の署名と印のある立候補(推薦)届出書*を締切期限までに選挙管理委員会(下記送付先)に提出してください。

3. 立候補(推薦)締切：2016年2月15日(月)17時必着

4. 立候補(推薦)届出書送付先：

〒113-0033 東京都文京区本郷6-2-9

モンテベルデ第2東大前406号

特定非営利活動法人 日本火山学会選挙管理委員会

※立候補届出書の様式は以下のサイトからダウンロードして下さい。

WORD： <http://www.kazan.or.jp/J/doc/2016senkyo.doc>

PDF： <http://www.kazan.or.jp/J/doc/2016senkyo.pdf>

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに1月4日送信しました)

○日本火山学会賞および日本火山学会研究奨励賞関係

【平成28年度日本火山学会賞および日本火山学会研究奨励賞候補者の公募】

特定非営利活動法人日本火山学会

会長 井口 正人

特定非営利活動法人日本火山学会では、平成28年度日本火山学会賞・同研究奨励賞候補者の推薦を以下の要領で公募しますので、ふるって応募下さい。

なお、日本火山学会論文賞については公募をしません。表彰事業の内容

1. 日本火山学会研究奨励賞 (Young Scientist Award) : 火山学に関する優れた論文を発表し, 将来, 火山学の発展への貢献が期待される本会会員で, 平成 28 年 4 月 1 日で 35 歳以下の者。(今回の公募対象)
2. 日本火山学会賞 (Volcanological Society Award) : 学術研究, 学術振興, 防災, 普及啓発など様々な観点において日本の火山学の発展に特段の貢献のあった個人または団体。非会員でも対象になります。(今回の公募対象)
3. 日本火山学会論文賞 (Best Paper Award) : 雑誌「火山」あるいは「Earth, Planets and Space」に掲載された論文中, 火山学に関する独創的で特に優れた論文の著者。平成 28 年度の対象論文は前 3 年 (2013-2015 年) に出版されたものとします。
(公募はしません)

推薦方法

- ・自薦・他薦を問いません。
- ・推薦者は非会員であっても構いません。
- ・下記の「推薦に必要な提出資料」を学会事務局までお送り下さい。

選考方法と受賞

- ・各賞選考委員会が上記 3 賞受賞候補者の選考を行い, 理事会において決定します。
- ・本年 5 月に開催される総会 (日本地球惑星科学連合 2016 年大会) において承認された後, 賞状の授与を行います。
- ・日本火山学会賞と同研究奨励賞受賞者には秋季大会で記念講演を行って頂きます。

また, 研究奨励賞受賞者につきましては, 受賞対象となった研究課題に関連する論文(レビュー論文)の「火山」への投稿をお願いします。

推薦の締め切り

平成 28 年 3 月 16 日 (水) 必着

推薦に必要な提出資料

以下のうち, 1 を電子メールの添付ファイル (MSWord かテキストファイル) として火山学会事務局へ送信下さい。また, 2 がある場合は郵送あるいは pdf ファイル等を電子メールに添付して下さい。電子メールで送る場合は, 必ず subject に「学会賞申請」あるいは「研究奨励賞申請」と明記して下さい。郵送の場合は, 封筒の表に同様に朱書きして下さい。

1. 申請書類 (様式は自由であるが, 必ず以下の項目を含むこと)
 - (1) 推薦対象の賞名 (学会賞か研究奨励賞かのいずれかを記述)
 - (2) 被推薦者氏名, 生年月日, 所属, 連絡先, 電子メー

ルアドレス。団体の場合は, 団体名, 連絡先, 代表者名とその連絡先などを記述のこと。

- (3) 被推薦者の学歴, 職歴, 研究・活動歴。団体の場合は活動歴。
- (4) 推薦者氏名, 所属, 連絡先, 電子メールアドレス, 被推薦者との関係。自薦の場合は, 本人の研究活動 (学会賞においては火山学への貢献) を熟知する照会者の氏名, 所属, 連絡先, 電子メールアドレス (推薦者や照会者は複数であっても構わない)。
- (5) 受賞対象となる研究課題名 (学会賞においては貢献活動名) (40 字以内)
- (6) 推薦理由
 - ・ 1000 字以内で簡潔に推薦の理由, 特に, 被推薦者 (あるいは団体) の研究・貢献活動の火山学における重要性 (もしくは評価されるべき点) をできるだけ具体的に記述のこと。
 - ・ 研究奨励賞においては, 対象となる論文 (複数可) も明記すること。
 - ・ 学会賞においては, 被推薦者 (あるいは団体) の活動に関して, 日本の火山学の発展への貢献度や社会的な位置づけについても簡潔に記述すること。
- (7) 主要な業績あるいは活動のリスト
 - ・ 最近のものから通し番号を付して記述する。
 - ・ 主な業績については, それぞれ, その内容と火山学的位置づけを 250 字以内で解説すること。
- (8) 本人の承諾書
 - ・ 他薦の場合は, 被推薦者本人 (あるいは被推薦団体代表者) が電子メールで事務局に直接送信のこと。自薦の場合は不要。
 - ・ 研究奨励賞においては, 本人の研究活動に関して火山学における位置づけについて自らの見解 (500 字以内) を必ず記述すること。

2. 参考資料

- ・ 選考のために参考となる客観的資料があれば 1 部ずつ添えること。
- ・ 一般雑誌の論文別刷りは不要。
- ・ 提出書類は要求がない限り返却しない。

推薦書提出先

〒113-0033 東京都文京区本郷 6-2-9

モンテベルデ第 2 東大前 406 号 日本火山学会事務局

電話 / FAX 03-3813-7421

e-mail : kazan-gakkai@kazan.or.jp

問い合わせ先

各賞選考委員長 宇都浩三 (産業技術総合研究所)

Tel : 03-3599-8001, Fax : 03-5530-2061

e-mail : k.uto@aist.go.jp

選考委員 (各賞選考委員会)

大湊隆雄, 鹿野和彦, 清水 洋, 藤縄明彦, 森 俊
哉, 山里 平

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに1月12日送信しました)

○「火山」60巻4号 目次

「火山」60巻4号・目次をアナウンスいたします。

目次・掲載内容のほか、メーリングリスト限定、著者からの一言メッセージをご覧ください。

1. 論説「大雪山御鉢平カルデラ起源の2種類の火砕流堆積物の噴出間隙：古地磁気方位に基づく推定」

著者：安田裕紀・佐藤鋭一・和田恵治・鈴木桂子

大雪山御鉢平カルデラから噴出した Hb-type 火砕流堆積物と Px-type 火砕流堆積物の噴出間隙を、堆積物間の古地磁気方位の差に基づいて推定しました。一般的に、異なる2つの火砕堆積物の噴出間隙を決定するには、堆積物の絶対年代を求めるか、堆積物間に挟まれる土壤の堆積速度などに基づく地質学的手法を用いる。しかし、御鉢平カルデラ起源の2つの火砕流堆積物については、片方の絶対年代が得られず、噴出間隙を決定できる地質学的証拠が得られなかった。そこで我々は、噴出間隙を推定する第三の手法として古地磁気方位の比較を行い、その実用性を示した。

2. 論説「安達太良火山西麓、酸川流域に分布するラハール堆積物：過去14000年間の層序・年代と堆積過程」

著者：片岡香子・神野成美・長橋良隆・木村勝彦

福島県の安達太良火山西麓に分布するラハール堆積物の地質学的特徴と年代から、過去14000年間に18回ものラハールが発生したことを明らかにしました。堆積物の多くは、泥質の基質と変質岩片からなり、水蒸気噴火の噴出物や熱水変質帯の岩石を母材とする噴火と同時または噴火後のラハールに由来します。また、砂礫質の堆積物は、休止期における火口湖あるいは火山周辺のせき止め湖の決壊洪水による可能性があり

ます。本論文での重要な示唆は、1) 流れの性質・規模・発生要因が異なるラハールが同じ火山から多数回発生したこと、2) 山頂での噴火記録と対応しないラハール堆積物があり、給源近傍に残されていない水蒸気噴火を含めた噴火の履歴や特徴を、遠方堆積したラハール堆積物から類推・復元することが可

能であることです。

3. 寄書「八ヶ岳火山の最新軽石噴火による Yt-Pm4 テフラの放射性炭素年代」

著者：大石雅之

八ヶ岳火山の噴出物は、特に新しい時代ほど不明なものが多い。したがって将来の長期的な活動を考える上で、最新期の噴火史を整理することが求められている。本論では、山麓に明瞭に堆積している降下軽石の中で最も上位の層準にある、Yt-Pm4 テフラの AMS 年代測定を行った。その結果、32951~32333 cal BP の年代値が得られた。これは給源と推定される北八ヶ岳の横岳で、最近約3.2万年間に少なくとも4回の溶岩流出噴火があったことを示している。

4. 寄書「1783年浅間山天明噴火で噴出した「火山硫黄毛」

著者：塚原えりか・津久井雅志・古川登・小林哲夫

浅間山1783年天明噴火の際に、「砂石」(火山灰・軽石)に加え、最長7~8寸の「黒白の毛」(火山毛)が交じり降ったことが記録されています。今回、長野県須坂市で当時薬種商を営んでいた山下家に保存されていた「黒白の毛」(「火山毛」試料)を検討する機会を得ました。黒(褐色)・白色(半透明)の「火山毛」は、どちらも珪酸塩のガラスではなく、非晶質の硫黄からなる「火山硫黄毛」であることが明らかになりました。

「火山毛」とされている試料の中には「火山硫黄毛」がある可能性もあることや、またその成因についても、今後再検討されることが期待されます。

5. 解説紹介「口永良部島2015年5月29日の噴火に遭遇して」

著者：宇平幸一・通山尚史

長年火山に関わっている方々でも、至近距離で噴火を目撃し、避難し、サンプル収集などのために戻り、火山を離れるという体験は希だと思います。

気象庁職員の視点から、主に噴火当日の09時58分頃からフェリー太陽が口永良部島を出港し屋久島に到着するまでの約6時間の間に体験したこと、考えたことを紹介します。皆さまの研究の参考になれば幸いです。

・学会記事

- (1) 平成27年度定例総会議事録
- (2) 平成27年度臨時総会議事録
- (3) 2015年度秋季大会報告

・日本の火山活動概況、その他のニュース(公募等)

・平成28年度日本火山学会賞および日本火山学会研究奨励賞候補者の公募

※毎2号・4号に同封している「会員消息」は2016年3月に「名簿」が発行されるため60巻4号では作成しておりません。ご了承ください。

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに1月5日送信しました)

**「火山」60巻4号(2015年12月31日)
正誤表**

前号「火山」60巻4号に下記の誤りがございました。訂正してお詫び申し上げます。

P 491 「講演題目」

【誤】 ○地球惑星科学関連学会 2015 年合同大会プログラム

【正】 ○日本地球惑星科学連合 2015 年大会プログラム

P 507 「学会記事」

特定非営利活動法人日本火山学会 平成 27 年度定例総会議事録

【誤】 (2) 第二号議案 議事録署名人承認の件

【正】 (4) 第四号議案 議事録署名人承認の件

P 512

【誤】 特定非営利活動法人日本火山学会 平成 27 年度臨時総会議事録 (案)

【正】 特定非営利活動法人日本火山学会 平成 27 年度臨時総会議事録

以上